



第40号
発行
筑波山がまの油売り口上研究会

定期総会の中止と新型コロナウイルス

ウィルス感染症対策について

がま研発足以来初の異常事態となり、林会長より特別に声明が寄せられました。各々の自制と研鑽のもと、活動再開の日を待ちたいと思います。

筑波山がまの油売り口上研究会は、平成十二年四月二日に設立し、お陰様で今年度で二十一年目を迎える運びとなりました。

この間、茨城県をはじめ各市町村、そして、ワープステーション江戸、茨城県フラワーパーク、国営ひたち海浜公園、水海道市あすなろの里、常陸風土記の丘など関係機関の皆様には、日頃の練習成果を発表する場をご提供いただきました。当研究会の運営に対し格別なるご支援・ご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

また、会員の皆様におかれましても、豊富な経験や卓越した技能、そして知識を活かされ、観光事業さらには福祉活動など地域の発展に多大なご貢献いただいておりますことに、この場をお借りして深く敬意を表し感謝申し上げます。

さて、我が国では現在、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されることから、全国の小中学校や高等学校等が三月初めから約一か月間休校となり、芸術・文化・スポーツ等に関する分野で、催事等

中止または無観客で試合を行うなど多方面に影響が及んでおります。七月には、日本で五十六年ぶりに開催される夏季大会「東京オリンピック・パラリンピック」の動向が心配されております。一日も早い感染症の終息を願うものであります。

当研究会でも、会員の皆様には、各種行事等への参加協力や福祉施設等への慰問など、多岐にわたって活動していただいておりますが、今年度は感染症の予防策の措置として、三月二十八日に予定しておりました「令和二年度定期総会」を中止とさせていただきます。皆様には審議していただきたく予定でした各議案等の内容につきましては、二月八日に開催しました役員会において慎重に検討させていただきました。つきましては、今年度に限り特例措置として、送付させていただきます。役員一同責任をもって運営させていただきますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

また、楽しみにしておりました「古河桃まつり」「常陸風土記の丘さくらまつり」等々につきましても開催が中止となりました。

会員の皆様には、今後引き続き同感染症に関する最新の情報を、マスコミや厚生労働省のホームページ等により入手していただき、口上の実演を行う際は、実施場所や催事の内容等を事前に確

歴史探訪会『鹿島神宮を訪ねて』

期 日：令和2年5月16日（土）
場 所：鹿島神宮（鹿嶋市宮中2306-1）
集合時刻：午前10時
集合場所：大鳥居前（第1駐車場脇）
※駐車場は有料（300円/日）となります。

内 容：鹿嶋ふるさとガイドに、鹿島神宮の境内全域を1時間30分ほど案内していただきます。
昼 食：散策後自由におとりください。
申し込み：参加希望の方は、各教室ごとに取りまとめ、それ以外の方は、林会長に直接連絡して下さい。
☎029-862-3629



鹿島神宮は、日本建
国・武道の神様である
「武甕槌大神」を御祭
神とする、神武天皇元
年創建の由緒ある神
社です。

認していただくなど、あらゆる面で万全を期していただくとともに、健康管理にも十分に留意されますようお願い申し上げます。（林記）

期待膨らむ 若手の台頭



日本国もがま研も高齢化は避けられない現実ながら、後継の若い口上師の誕生に期待が膨らみます。若手の筆頭、熱い二人の今をお伝えします!!



筑波山がまの油売り口上

研究会に参加して

高橋 雄太

九月から四回にわたりがまの油売り口上講座に兄と一緒に参加させていただきました群馬県の高橋雄太です。今は、中学二年生です。僕は寄席で落語のがまの油売りを聞いて、「がまの油売りって面白い。」と父に話したところ、茨城県で本物を教えているということを知り、ぜひやりたいと思いついて参加させていただきました。

一回目に佐藤先生の口上を聞き、落語との違いにびっくりしました。実際の口上はいろいろな品物を使い、刀で腕を切ったりしてとてもすごかったです。これはすごい！すぐやりたい！と時間を忘れ聞き入ってしまった。

二回目では林会長先生からがまの油の歴史を聞き、その歴史が僕の学校で教わっている歴史と重なりとても興味深く、また、とても奥深いものだと思いました。そして、これは本気でやらないと失礼になるとも思いました。

口上で用いられる品物にもとても興味を持ちました。今まで見たことないものがいっぱいです。すぐに調べて拍子木を買ってもらいました。本当は、刀が欲しかったのですが危ないからとその時は、買ってもらえませんでした。拍子木は、カンカンともいい音が鳴りとても気持ちがいいです。あとタスキを買い、服は父が昔使っていた剣道着を着て練習しています。

また、十二月に見学させていただいた「つくばね会」の皆さんのその人それぞれ違う熱気ある口上に圧倒され、早く皆さんのように人を引き付ける口上がしたいと思いました。もしも許されるのであれば、このまま参加させていただいて、練習して道の駅などで皆さんと一緒に口上してみたいです。

将来、僕は、講師か落語家になりたいと思っています。がまの油売り口上も出来る芸人として寄席で披露できたらと思っています。そのためにも今は本気で頑張りたいと思います。皆さんよろしくお願ひいたします。

お兄さんは高校2年生で、部活と受験に向けて忙しい毎日。一方、同じく部活も頑張りながら雄太君は、毎日口上の練習を続けているとか。

古河桃まつりでのデビューを目標に練習を重ねてきた雄太君でしたが、今回の自粛要請の中、残念ながら次の機会まで延期となりました。

群馬県前橋市からつくばね会の練習に参加してくれる本人とお父さんの熱意。腹の底から発せられる声の力強さと若者が持つ爽やかさ。デビューの暁には、きっと聴衆を魅了するに違いありません。

『二月九日、額田小体育館に拍手鳴り響く。小二女子が那珂市長を含む観客約百名の前で見事、がまの油売り口上を演じ切る』
結果だけを書けばこのような文章になります。ここに到るまでの経緯を少し書いてみたいと思います。

保存会のメンバーがガマガールズを立ち上げて活躍していることを知ったのは三年前。水戸教室でも考えた時に、頭に浮かんだのは阿弥陀寺副住職の娘さんであるいろはちゃん。

このいろはちゃんが昨年四月に「がまをやりたい」と言って水戸教室のメンバーと一緒に口上の練習を始めたことは、かわら版の前号で紹介されている通りです。私にしてみれば、まさに「待ってました」でした。当初、いろはちゃんは今年三月末のお寺の桜祭りでデビュー出来ればという感じで練習をやっていたが、そろそろその桜祭りに合わせて練習のペースを上げなければと思っていた矢先の昨年十一月初め、いろはちゃんが入会して活動しているサタデースクール（希望者が入会する広域子供会のような組織）が、今年の二月九日に行う十周年記念イベントで、がま口上をやることになったとの報あり。しかも依頼されてOKしたのはいろはちゃん自身とのこと。少々驚きましたが、自分で引き受けたからにはいろはちゃんもやる気があるもの

がまガールがデビューしました

と信じて練習計画を作成。月一回の練習を十日に一回の練習に変更。そのかいあって十二月中には、ほぼ一通り出来るようになりました。

一月十八日にリハーサルがありました。が、実はこの時に初めてこのイベントが単なる子供会行事ではなく、市長や来賓が多数出席される地域行事であることが分かりました。それはそれとして、あとはいろはちゃんに頑張ってもらおうしかありません。

二月一日にはフル装備で水戸教室のメンバーの前で実演し、まずまず。この後当日のことは冒頭に記した通りです。

いろはちゃんは比較的短期間にデビュー出来ましたが、これは子供故の吸収力の強さ、速さに加え、門前の小僧的な感覚で発声の抑揚やテンポ等を覚えていたことや、不得意場面を自覚して自主練習努力をしたことなどによるものだと思います。又、

家族や水戸教室の激励等がモチベーションを維持させるための思いです。とはいってもの、いろはちゃんはまだまだ未



熟。まずは三月末の桜祭りに向けて練習頻度を維持。その先は？ 秋の海浜公園での実演（年少者規制等がなければ）。

そうそう、姉妹ゲンカ相手の次女なごみちゃんも、小学校に入学したら一緒に練習をやると言っている。二年後には、がまスタースが誕生するでしょう。その又先は？ 活躍できる環境をどのように創り出して行くか。大人の宿題ですネ。

水戸教室 尾形志次男 記

いろはちゃんのデビューについては、尾形さんの並々ならぬ尽力があつてのことです。 星野 記

会 費 納 入 の お 願 い

3月4日付けのハガキでお知らせしたとおり今年度の総会では中止となりました。つきましては総会時にお納め頂いている年会費2,000円を未納の方は、お振込みをお願いします。

振り込み先：ゆうちょ銀行
 口座番号：10690-38833081
 口座名：筑波山がまの油売り口上研究会

日泰友好の町 クンユアム慰霊の旅

クンユアムは、首都バンコクから北東約千キロのメーホンソン県にあり、そこから南西約六十キロ、車で一間半程かかった。ミャンマーの国境に近い場所、住民は少数民族が殆どである。

先の大戦の戦跡をめぐりその犠牲になった方々の慰霊をしようというグループがあり、今回その誘いを受け参加してきた。行先は、タイ国メーホンソン近郊の町クンユアム、かの悪名たかき『インパール作戦』に参加した十五師団の補給基地があった所で、撤退してきた多くの将兵が現地住民との交友で助けられた場所。亡くなった将兵の共同墓地も四か所ほどある。

ここでの慰霊を行うことが目的であった。

ここには戦争博物館があり、旧日本軍の装備品や遺品が数多く展示されていた。



戦争博物館

タイは初めてで、一月二十二日から二十六日、成田から約六時間。いきなり真夏の国、バンコクへ来た。ここも車社会で市内の渋滞は相当なもの、人々の顔と言葉が違うだけ。市内の高架鉄道に乗った時若い女性に席を譲られたり、デパートで同行者の買物を持って暫く立っていると店員が椅子を勧められたりと、親切な人に多く出会い心が和んだ。

生粋のタイ人は役人か警察官のみという。このクンユアムマイタヤ高校で日本語教師をしている陰山修一氏に迎えられた。氏は神戸の出身で、『企業を早期定年退職してタイに移り住み、六年になるという。氏の案内で日本兵墓地での慰霊祭を行い、戦争博物館の見学、旧日本軍野戦病院跡などを巡った。博物館には三八銃の展示も有り、持ってみると結構重く、その他の装備品も加えると相当な重さになり、当時の兵士の苦勞がしのばれる。この墓地を慰霊のため訪れる人は他にもいて、花束を抱えた三人の男性に会った。関係者ですかと尋ねると「いいえ慰霊のため」とのこと。

陰山先生の教え子である女子生徒二人の出迎えも受け、彼女らの実家にも案内してもらった。彼女らはカレン族といい、彼女たちの実家は深い山の中にあった。道路は舗装しており、電気も通じているが生活実態は日本の戦前の農村を思わせる質素な様子であった。

この高校は生徒数千人数という家が山の中に点在しており、移動するには公共交通機関はなく車のみのため殆どの生徒は寄宿舎暮らしという。生徒らの経済状態は相当厳しいようで、年間三千円程度の負担金（基本的にタイの教育費は無償らしい）が払えずに、陰山先生に泣きついてくる生徒が毎年数人いるという。



首長族の女性

翌日はメーホンソンの町から車で三十分位にある首長族の部落を訪ねた。女性の首を長くするため幼女のころから首に真鍮の輪を巻いている。話には聞いた事があるが実際に見るのは初めてである。因みに、首輪は取り外しができ首の長いことが美人の条件であるそうだ。山の中の部落で土産物販売に特化して、生計をたてているそうだ。ここで布製バッグと乾燥イチゴを買った。家内はバッグのセンスが良いと喜んでた。

今回の旅、慰霊のためということで厳粛な気持ちで臨んだが、七十五年経つと時代や風景が代わり、遠くなったなと言う感じがした。

つくばね会 丸山 義雄

編集後記

記念すべき四十号をお届けと思いきや、あれも中止、これも無し、いつも忙しく飛び回っておられる会員の皆様も、止まったような時間の中をお過ごしかもしれません。東京は三月十四日小雪の舞う中、観測史上最も早い桜の開花を確認したとか。花見も、見えない敵に阻まれて車窓から眺めることになるのでしょうか。早く退散してくれることを願いつつ、皆様ご自愛下さい。

編集子